

株式会社フィックスターズ

2021年9月期 通期決算補足説明資料

2021/11/12

本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものであります。

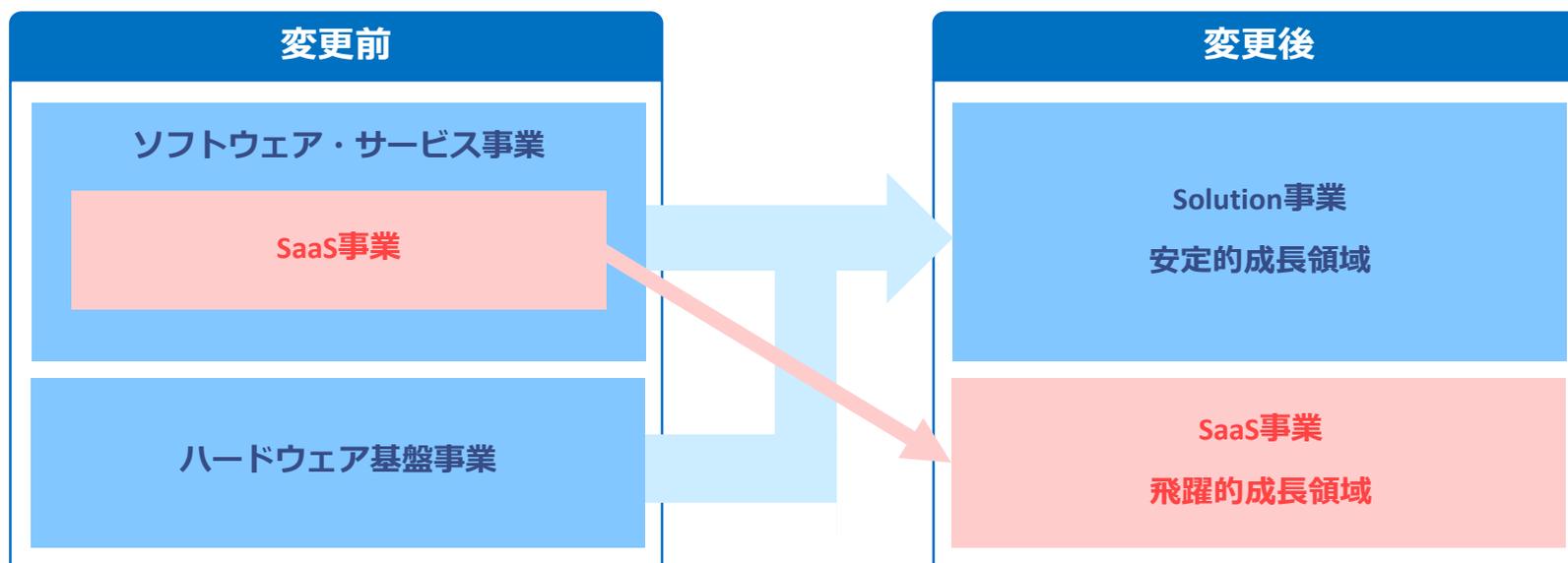
当該仮説や判断に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等の様々な要因により、実際の業績等は本資料記載の業績予想とは異なる場合があることをご承知おきください。

1

2021年9月期 決算説明

・ 中期経営計画の遂行にあたり、SaaS事業の本格的な成長を見据える

- ・ Solution事業 : 主力の高速化ソリューションを推進
旺盛な需要を背景にした安定的成長
- ・ SaaS事業 : 新規SaaS事業の推進
飛躍的成長を遂げるための投資領域



- HW販売の大型スポット案件失注、本社移転等の影響により減収減益

- 売上高 : 5,501百万円 (前年同期比 ▲4.6%)
- 営業利益 : 971百万円 (前年同期比▲18.0%)

- Solution事業のうち高速化サービス等のsw関連は堅調、コロナ前の水準に

- 高速化サービスを中心とした旺盛な需要
- 採用市場における競争激化により人員増は小幅に留まる

- SaaS事業は積極的投資、収益化に向けた活動を継続

- 「GENESIS」を開発環境から評価環境として方針転換、ルネサス社に採用
- 量子コンピューティング事業領域を担当する子会社「Fixstars Amplify」設立へNTTデータ社、NRI社等とパートナー契約締結
- 修正漏れバグの検知ツール「Sider Scan」リリース、受注開始
- 乳がんAI画像診断支援サービスはPMDA認証手続きが進行中

連結損益計算書

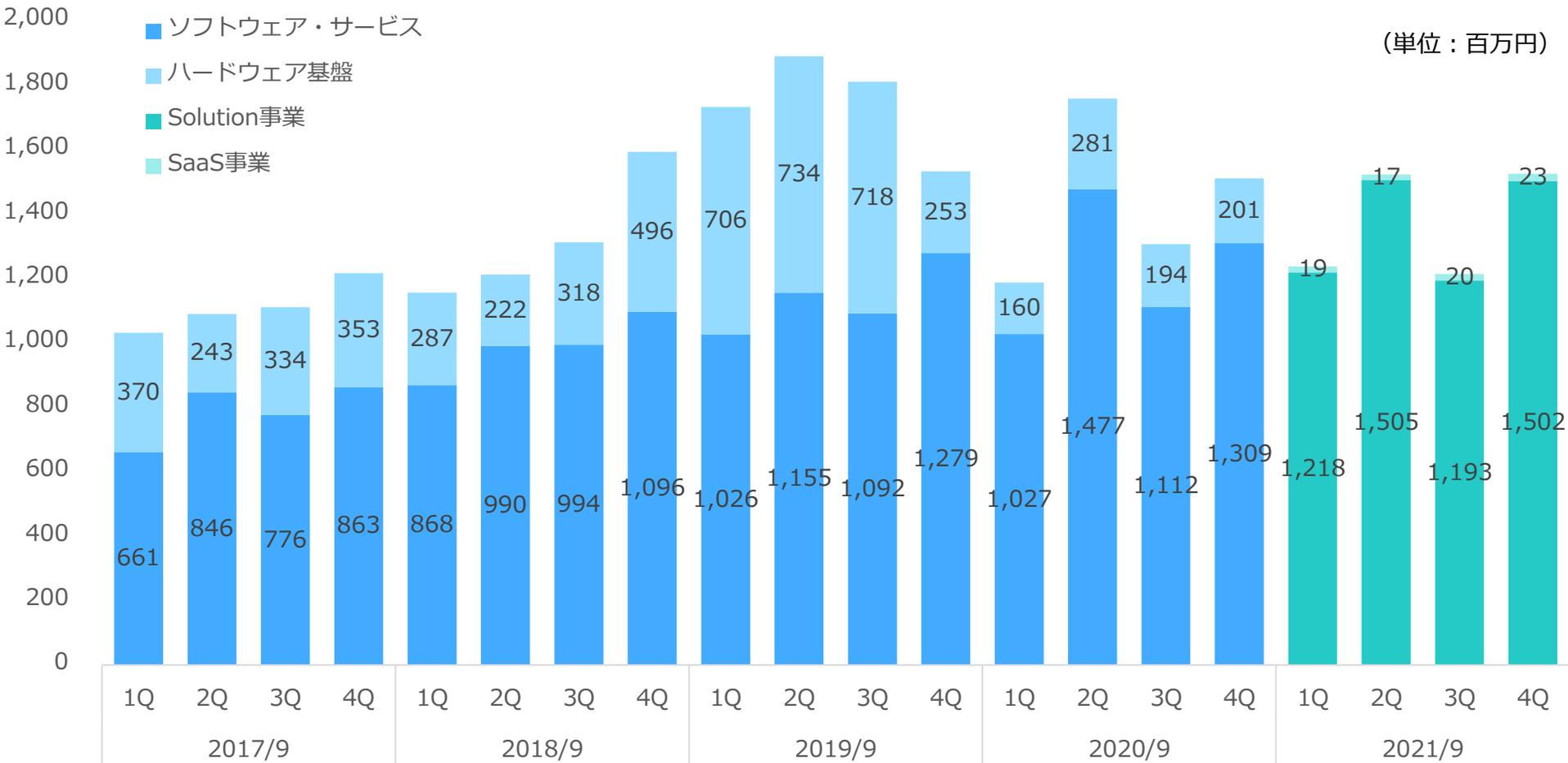
主力の高速化サービスは堅調に推移しているものの、ハードウェア販売の大型案件失注や量産販売製品のEOLをカバーしきれず減収、予算未達。
 本社移転関連の一時的な費用等も重なり、利益面においても減益、予算未達となった。

(単位：百万円)	2020年9月期		2021年9月期		
	実績	予算	実績	前年同期比	予算比
売上高	5,764	6,100	5,501	▲4.6%	▲9.8%
営業利益	1,184	1,000	971	▲18.0%	▲2.8%
売上高営業利益率	20.5%	16.4%	17.7%	▲2.9pt	+1.3pt
親会社株主に帰属 する当期純利益	668	600	543	▲18.7%	▲9.5%
売上高当期純利益率	11.6%	9.8%	9.9%	▲1.7pt	+0.0pt

売上高

Solution事業の売上が大半を占める状況。

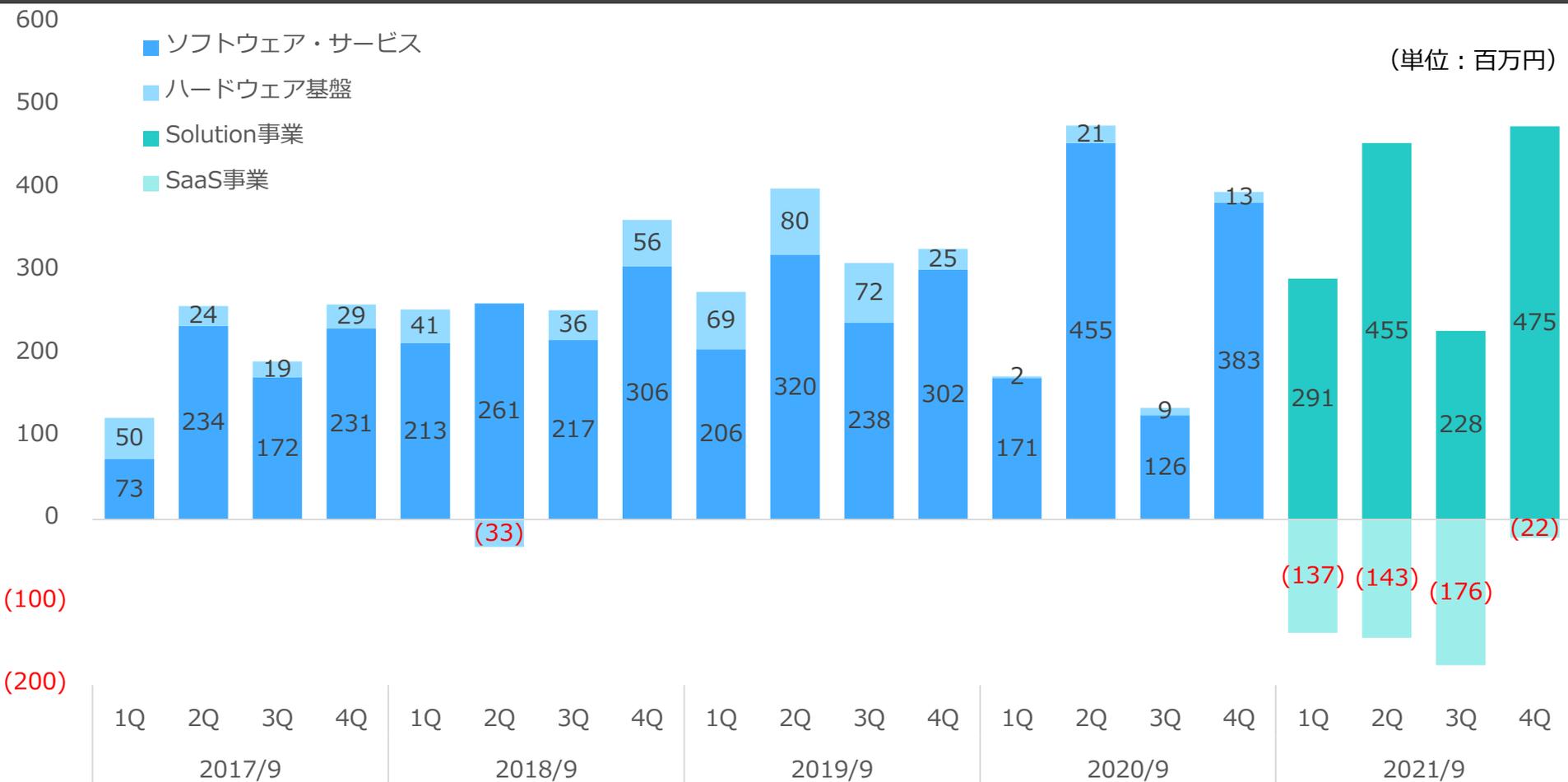
SaaS事業については今後の飛躍的成長を目指す。



営業利益

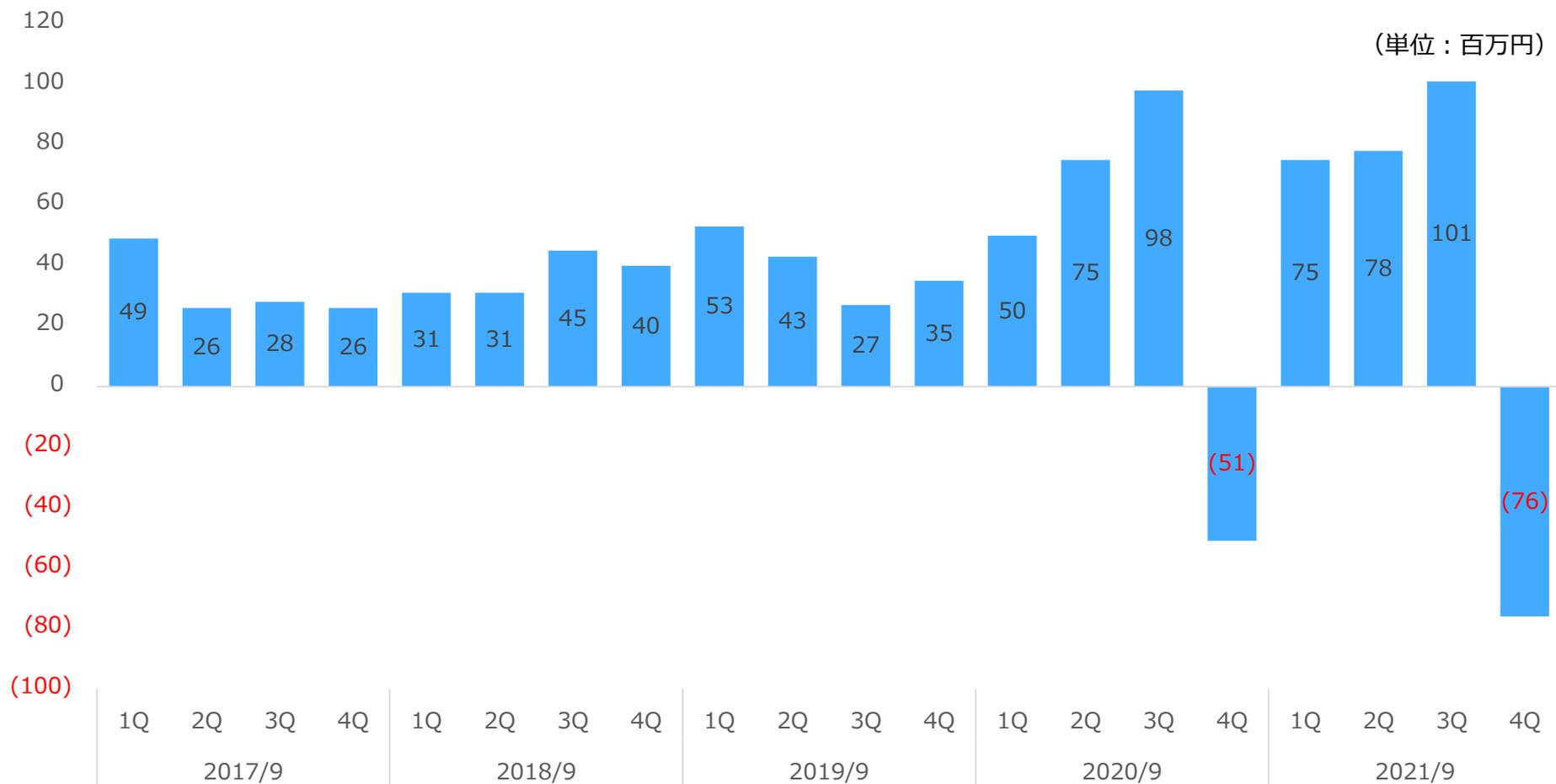
新規事業への投資、本社移転に伴う一時費用や二重家賃の発生等により利益水準が低下。

4Qにおいては補助金の受入に伴い、一時的にSaaS事業の赤字が縮小。



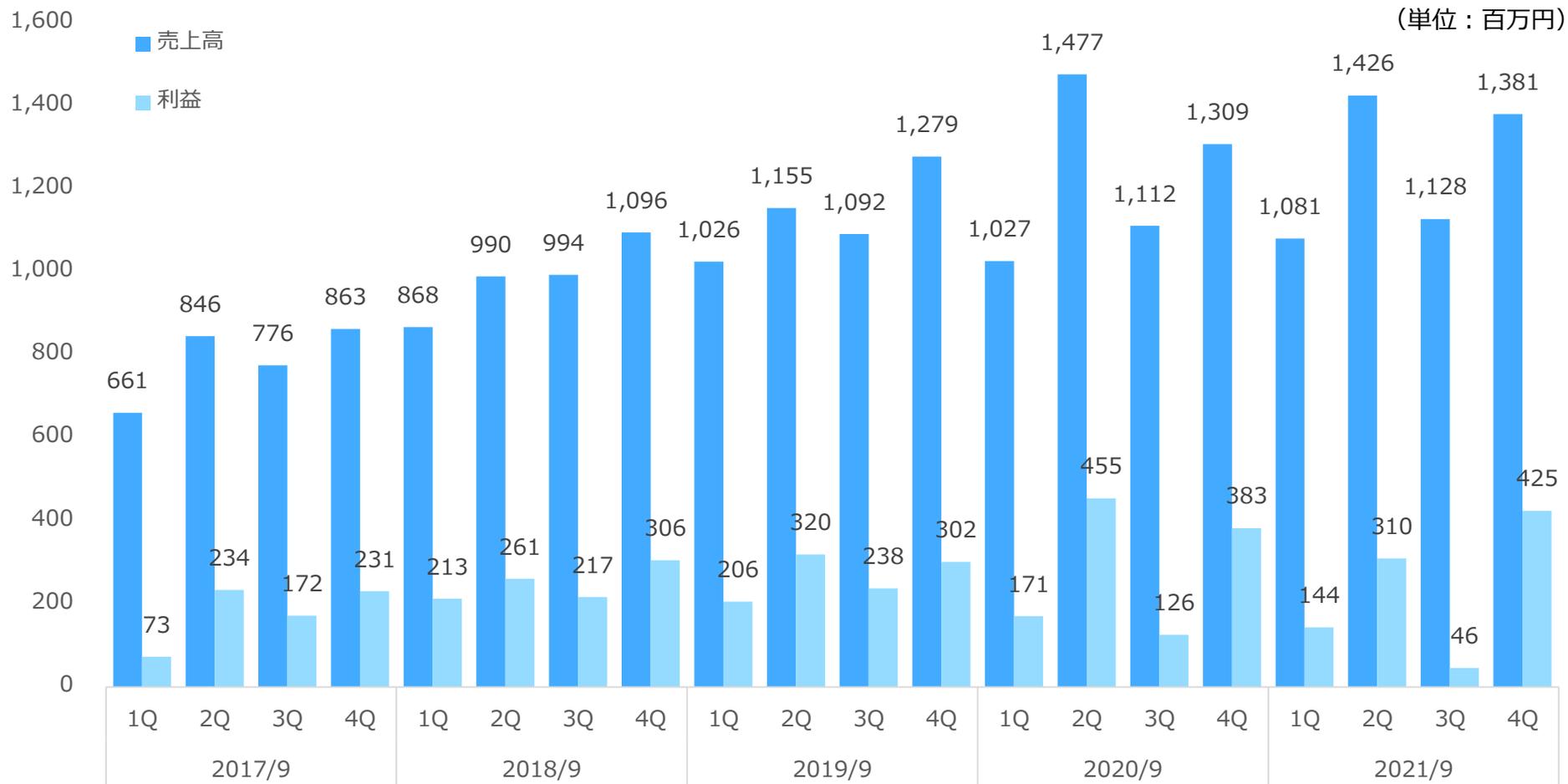
研究開発費

新規SaaS事業向けの研究開発を継続。中長期の研究開発活動においてはNEDO等からの補助金を活用し、費用負担の軽減を図る。
前期と同様に補助金を4Qに受入。



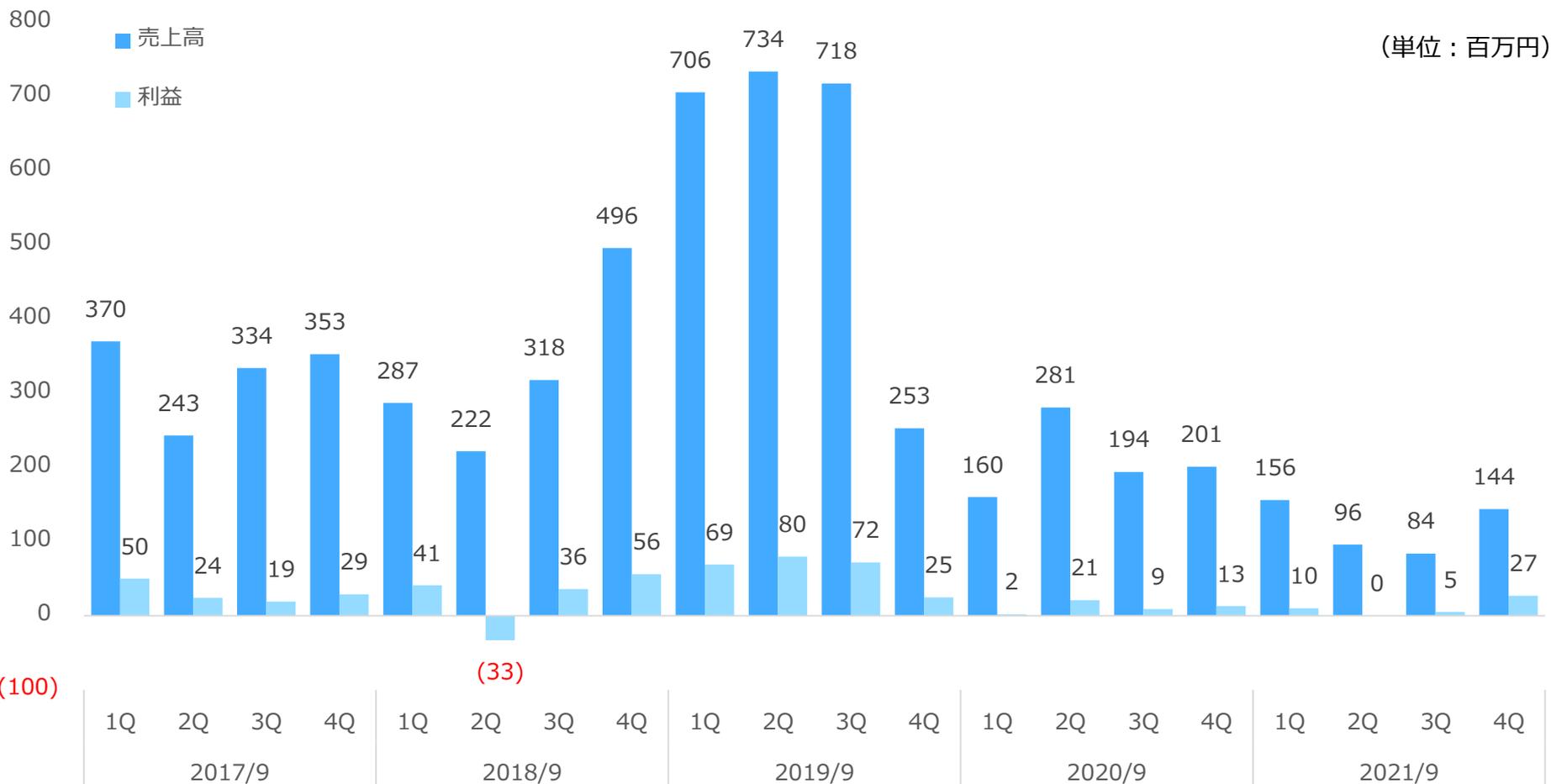
(参考) ソフトウェア・サービス事業

コロナ禍の影響が前期の3-4Qにかけて一部に現れたものの一時的な影響に留まり、今期はそれ以前の水準まで回復。
新規事業への投資、本社移転に伴う一時費用や二重家賃の発生等により利益水準は低下。



(参考) ハードウェア基盤事業

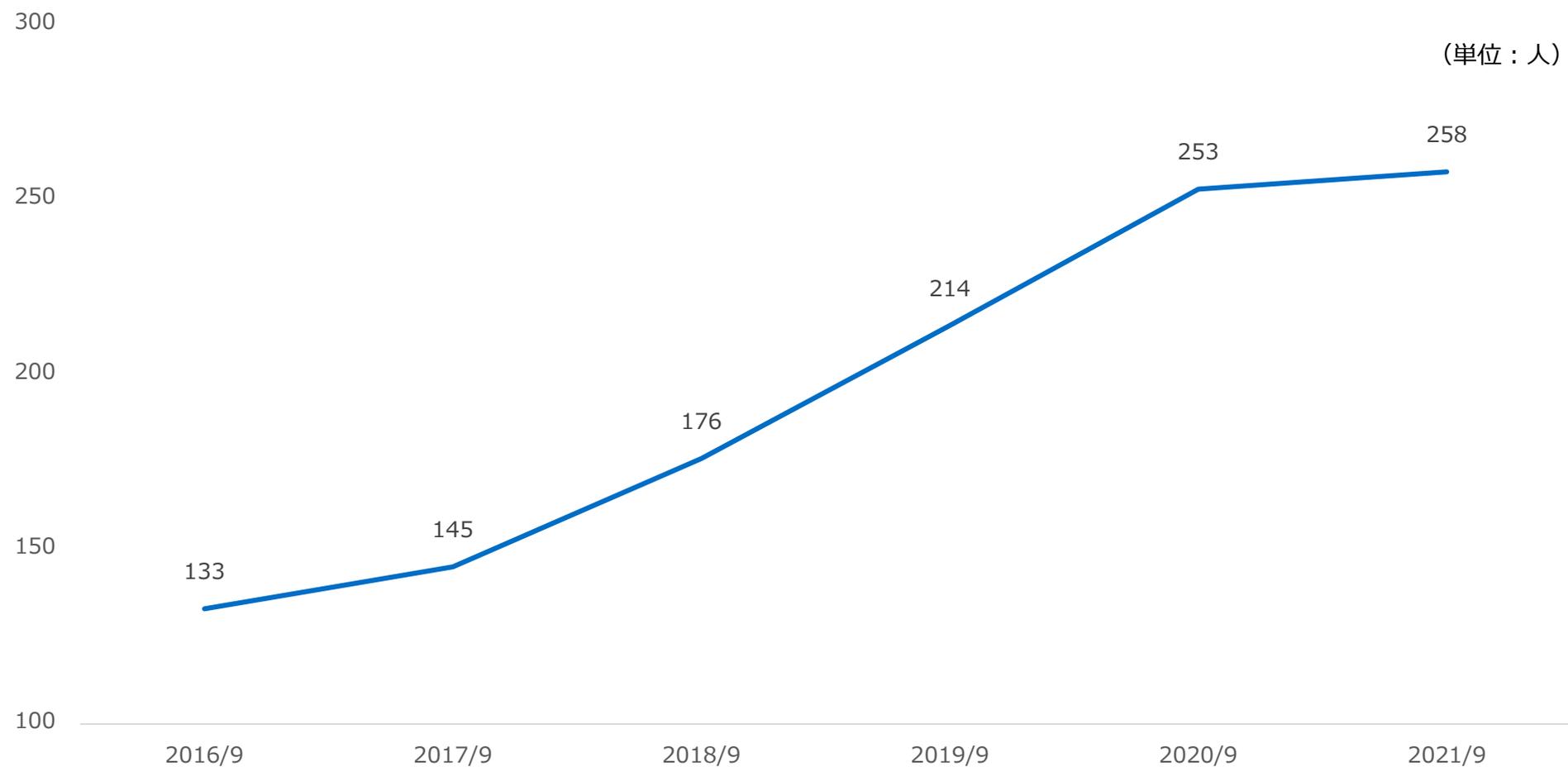
量産販売製品である画像処理プロセッサ搭載演算ボードは2021年3月でEOLを迎えた。大型のスポット案件を2Qに見込むも失注となり、FPGAボードや各種サーバ販売の小規模な案件獲得に留まる。翌期以降は新収益認識基準の適用により収益の大半を純額計上見込み。



社員数推移

採用市場の競争激化等により社員数が伸び悩む。

2022年9月期以降の採用に向け、様々なチャネルを利用した活動を実施中。



2

2022年9月期 通期業績予想

・ 主力のソリューション事業の着実な成長、SaaS事業の成長加速

新規事業への投資・販促活動、採用活動等による販管費増を見込む

- ・ 売上高 : 6,500百万円 (前期比 +18.1%)
- ・ 営業利益 : 1,100百万円 (前期比 +13.2%)

・ Solution事業は全体に堅調な成長を見込む

- ・ モビリティ等を中心とした高速化ソリューションに対する旺盛な需要
- ・ SaaS事業に関連したSolution事業の受注については前期に一定の成果
GENESIS/Amplifyを中心に、より一層の受注拡大を見込む
- ・ 成長のための人材確保に注力

・ SaaS事業は売上成長の加速フェーズへ

- ・ ユーザの声を聴きながら各製品の改善を重ねる
- ・ 向上した製品力を背景に、売上の成長加速を狙う
- ・ パートナーとの協業によるサービス展開
- ・ 成長のための事業育成投資・研究開発投資を継続

連結損益計算書・配当金

増収・増益を見込むも、Solution事業を中心とした採用活動への注力、SaaS事業を中心に販促活動の拡大を予定しており、営業利益率は前期比で低下見込み。SaaS事業子会社の損益改善により連結での税負担率が低下し、純利益率は上昇の見込み。配当は配当性向30%を目安に実施予定。

(単位：百万円)	2021年9月期	2022年9月期	
	実績	予想	前期比
売上高	5,501	6,500	+18.1%
営業利益	972	1,100	+13.2%
売上高営業利益率	17.7%	16.9%	▲0.7pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	543	700	+28.9%
売上高当期純利益率	9.9%	10.8%	+0.9pt
1株当たり当期純利益	16.64円	21.53円	+29.4%
1株当たり配当金	5円	6円	+1円

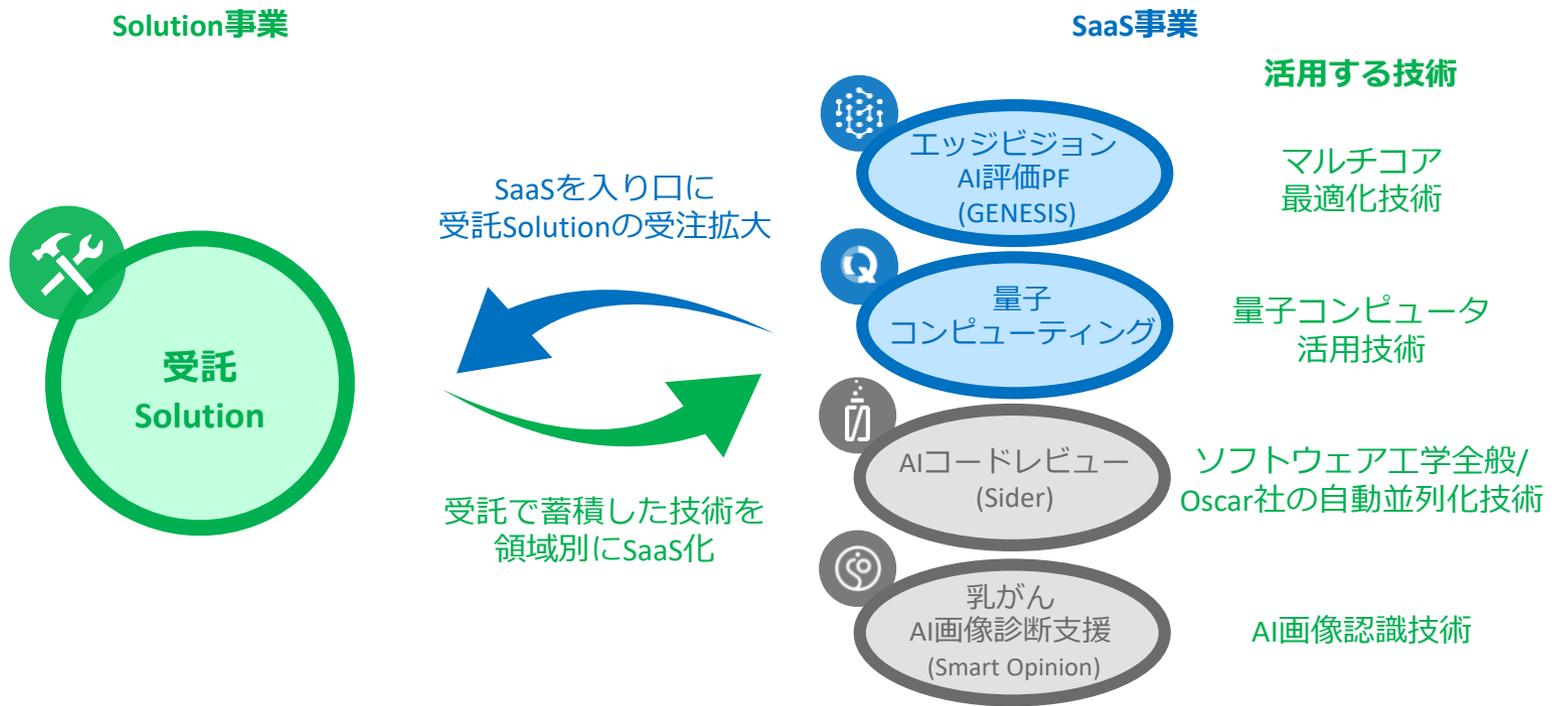
※2021年12月の定時株主総会にて決議予定

3

補足資料① SaaS事業の状況

Solution + SaaS のハイブリッド収益モデルへの転換

当社が強みとする技術を領域別のSaaSに展開し、成功の確度を保ち、リスクを低減しつつ成長率の飛躍をねらいます。さらに、SaaSを入り口として受託Solutionの受注にもつなげ、SolutionとSaaSのシナジーを構築していきます。



- 高付加価値・高単価の受託による高速化ソリューションの提供（人月モデル）
- 先端技術の蓄積により、成長領域において他社より先に案件を確保。安定的で着実に成長

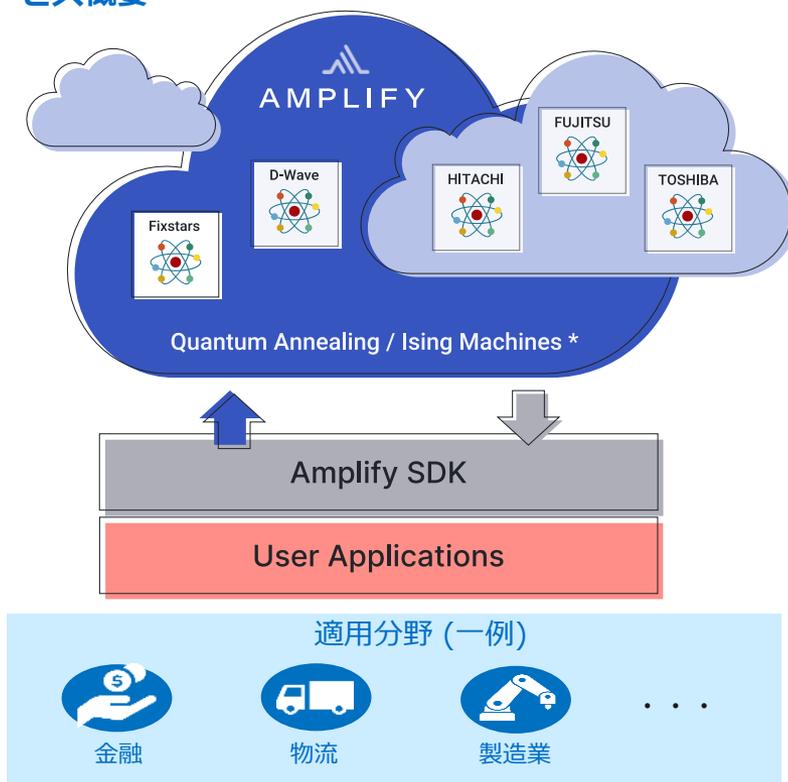
ビジネスモデル
当社の強み

- Deep Tech SaaSビジネスによるリカーリング売上の拡大（継続課金モデル）
- 受託で培った技術を用い、初期投資とリスクが低減できる領域で展開。飛躍的成長を目指す

量子コンピューティング事業

多くの量子コンピュータ・イジングマシンを透過的に扱うことができる、Fixstars Amplifyクラウドサービスを展開。
量子コンピューティングのデファクトスタンダードを目指します。

サービス概要



事業の状況

- Fixstars Amplifyの実運用導入に向けた活動
 - ・野村総合研究所、豊田通商、NTTデータとパートナー契約締結
 - ・量子技術による新産業創出協議会：Q-STAR 加入（特別会員）
 - ・D-Wave Systemsの量子コンピュータに標準対応
- 2021年10月に専門の子会社「Fixstars Amplify」を設立

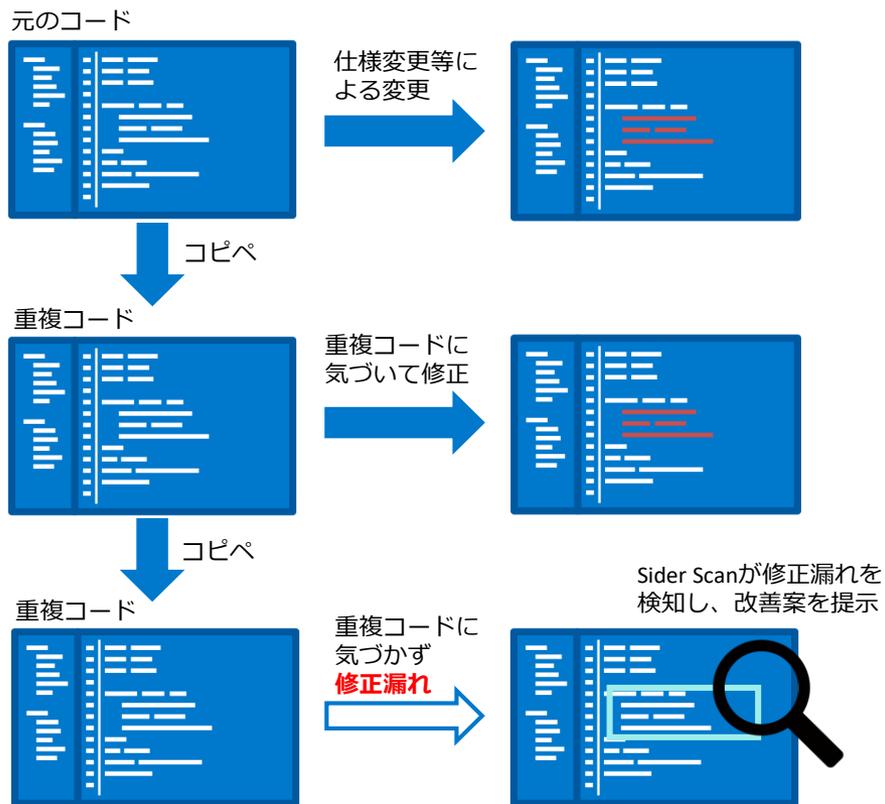
今後の施策

- 組み合わせ最適化問題に特化した分野でSaaSサービスを立ち上げる
- 実運用事例を増やすべく大学や産業界と連携し、実社会問題を1つずつ解決していく
- 量子コンピューティングクラウドプラットフォームとしてデファクトスタンダードを目指す

AIコードレビュー “Sider” 事業

ソフトウェア開発において、完成したコードを第三者の目でレビューする「コードレビュー」は必要不可欠となりつつあります。本事業では、AIによる自動のコードレビューを提供し、あらゆる開発プロジェクトの品質を劇的に向上させます。

新製品「Sider Scan」の概要



事業の状況

- ☑ 広くソフトウェア開発者向けのツールを開発してきたが、ソースコードレビュー分野にリソースを集中
- ☑ 新製品「Sider Scan」をリリース
バグの温床であるが、既存のツールでは検出できなかった重複コード（コピペの結果生成される類似のコードブロック）に起因するコードの問題を自動検出し改善提案¹
- ☑ Sider Scanは複数の国内大手企業と年間有償契約を締結
米国でも複数の大手企業とトライアル開始

今後の施策

- ☑ ソースコード分析エンジンをAIを用いてより賢く指摘できる問題の範囲を広げていく
- ☑ ソフトウェア開発のワークフローに違和感なく入り込むような、使い勝手の良さを追求
- ☑ グローバルにサービスを提供し、世界シェアNo1を目指す

Note: 1) 特許申請中技術

エッジビジョンAI評価プラットフォーム“GENESIS”事業

自動運転やFA等、様々な分野で利用拡大が見込まれるエッジビジョンAI/IoT向けのクラウド評価環境です。

ビジョンAIなどのアプリを自動でデバイスに最適化した上で性能評価し、最適なハードウェア選定を可能にします。

サービス概要



事業の状況

- 開発プラットフォームから評価プラットフォームへ
 デバイスのサプライヤ側にフォーカス。当社の技術によりデバイスの性能を最大限に引き出すとともに、開発者によるデバイス評価の手間を削減し、組み込み機器へのデバイス採用に繋げる
- ルネサスエレクトロニクス社に導入

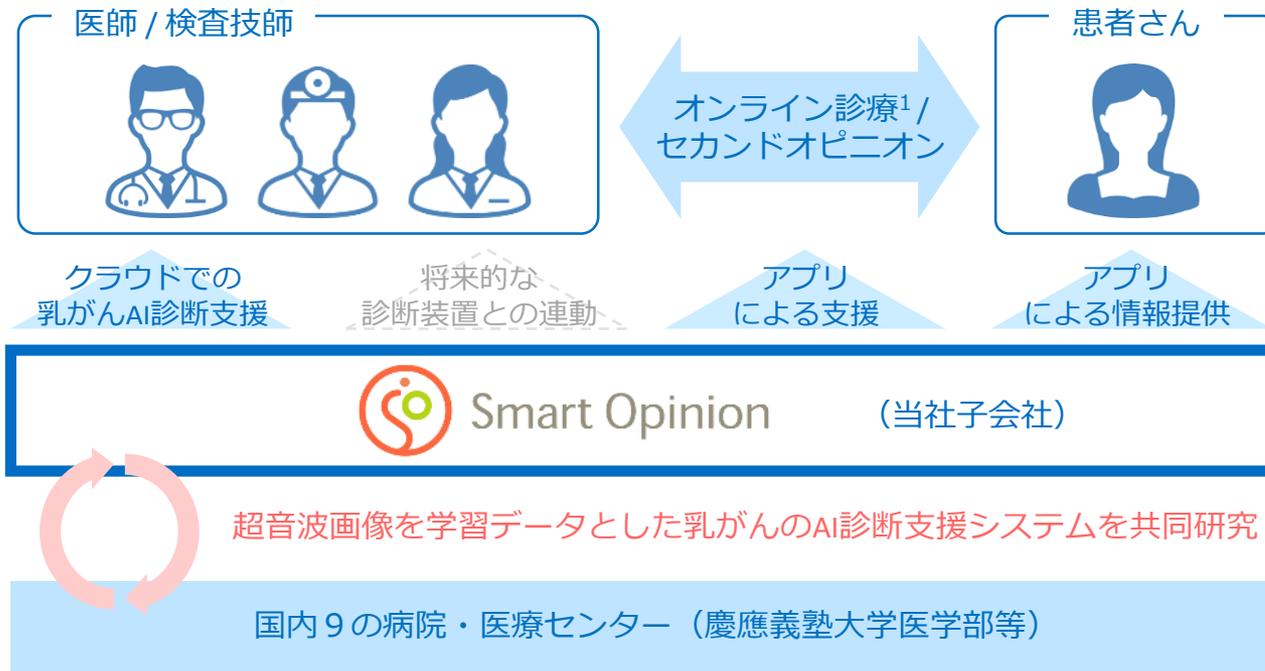
今後の施策

- 開発者が容易にハードウェア評価を行える環境を構築し、サプライヤの営業活動を効率化
- GENESIS上で評価可能なハードウェア・アプリケーションを増やし、開発者の利便性を向上
- 次世代のAIエッジビジョン/IoT向けハードウェアの評価環境として成長

乳がんAI画像診断支援事業

乳がんの超音波画像に対し、AIを用いて精密検査の要否を高速かつ高精度に判別し、医師の負担軽減を目指します。
乳がんの早期発見を支援し、がん発見後も総合的に患者さんをサポートするサービスを提供していきます。

サービス概要



事業の状況

- ☑ AIの開発を進めるとともに、PMDA認可取得に向け活動中
AIの有用性が学会等で高評価

今後の施策

- ☑ 早期にサービス開始すべく、PMDA認可取得に向けた活動を継続
- ☑ クラウドでの診断支援サービスで、病院側での初期投資のないサービス提供を図る
- ☑ 超音波診断装置と連動したサービス提供を目指す

Note: 1) コロナ禍における対応として、Smart Opinion社では既にオンライン診療サービスの提供を開始しています。

4

補足資料② フィックスターズについて

高速化のエキスパート集団

フィックスターズは、コンピュータの性能を最大限に引き出し大量データの高速処理を実現する、高速化のエキスパート集団です。

概要

会社名	株式会社フィックスターズ
本社所在地	東京都港区芝浦3-1-1 msb Tamachi 田町ステーションタワーN 28階
設立	2002年8月
上場区分	東証一部（証券コード：3687）
代表取締役社長	三木 聡
資本金	5億5,446万円（2021年9月現在）
社員数（連結）	258名（2021年9月現在）
主なお客様	キオクシア株式会社 株式会社ネクスティ エレクトロニクス 株式会社日立製作所 キヤノン株式会社

グループ体制

株式会社フィックスターズ

株式会社Fixstars Autonomous Technologies

株式会社ネクスティ エレクトロニクスとのJV
自動運転向けソフトウェア開発に特化

Fixstars Solutions, Inc.

100%子会社
米国での営業及び開発を担当

株式会社Sider

100%子会社
新規SaaS事業“Sider”を担当

株式会社Smart Opinion

連結子会社
乳がんAI画像診断支援事業を担当

オスカーテクノロジー株式会社

連結子会社
ソフトウェア自動並列化サービスを提供

株式会社Fixstars Amplify

100%子会社（2021/10設立）
量子コンピュータ関連のクラウド事業を担当

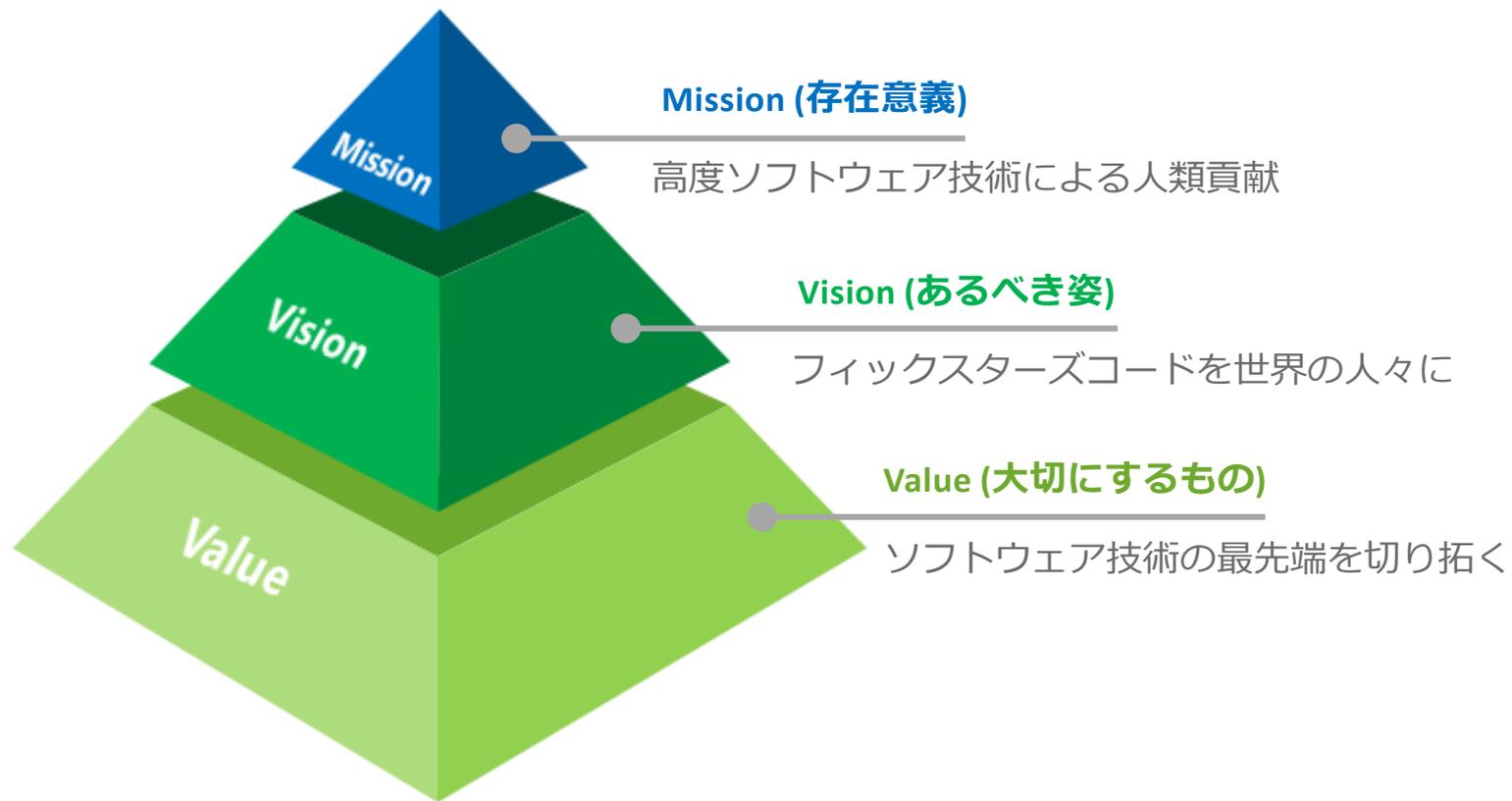
コンピュータの進歩とともに

ハードウェア技術の進化にいち早く対応し、
その性能を最大限に引き出すソフトウェア開発・高速化サービスとともに成長してきました。

年月	出来事
2002年 8月	神奈川県横浜市に有限会社フィックスターズ設立、その後株式会社に組織変更
2004年 7月	マルチコア技術開発部設立、Cell/B.E.ソフトウェア開発サービス開始
2006年 12月	PlayStation®3の発売を受け、「PS3® Information Site」を立ち上げ
2009年 12月	「OpenCL入門—マルチコアCPU/GPUのための並列プログラミング」を出版
2010年 11月	米国空軍研究所に、PlayStation®3を用いた高速クラスタシステムを導入
2012年 1月	NANDフラッシュメモリ関連ソフトウェア開発サービス開始
2014年 4月	東京証券取引所マザーズ市場に上場
2016年 11月	東京証券取引所市場第一部に市場変更
2017年 6月	量子コンピュータを手掛けるD-Wave社との協業を開始
2018年 2月	自動運転分野のさらなる拡大を目指し、ネクスティ エレクトロニクス社と合併会社Fixstars Autonomous Technologiesを設立
2020年 3月	自動並列化技術に強みを持つオスカーテクノロジー株式会社の株式を取得、連結子会社化
2021年 10月	量子コンピューティング領域のさらなるサービス事業拡大を目指し、株式会社Fixstars Amplifyを設立

コンピュータの恩恵を人々に

コンピュータの性能を最大限に引き出す高速化技術を軸に、ESGをはじめとする人類社会の課題解決に貢献しています。



高速化技術による環境負荷低減

当社は、多様な産業分野に対する高速化ソリューションにより電力消費を大幅に抑え、環境負荷低減に貢献しています。

多様な産業分野における高速化ソリューション

Semiconductor

- ・ NAND型フラッシュメモリ向けファームウェア開発
- ・ 次世代AIチップ向け開発環境基盤の開発

Mobility¹

- ・ 自動運転の高性能化、実用化
- ・ 次世代パーソナルモビリティの研究開発支援

Life Science

- ・ ゲノム解析の高速化
- ・ 医用画像処理の高速化

Finance

- ・ デリバティブシステムの高速度化
- ・ HFT(アルゴリズムトレード)の高速度化

Industrial

- ・ Smart Factory化支援
- ・ マシンビジョンシステムの高速度化

数倍～数百倍の高速化による
電力消費時間の短縮



Note: 1) 一例として、自動運転向け画像認識処理の高速化 (1車種) のみでも、2020年に約14,000トンのCO2削減が見込まれる (当社推計)

高速化に限らない様々な社会貢献

高速化ソリューションによる消費電力削減に加え、自動運転や医療等の様々な分野への支援により、環境や社会の課題解決に貢献しています。

当社事業領域

社会的価値



自動運転の高性能化、実用化
次世代パーソナルモビリティの研究開発支援

交通事故の根絶
交通弱者へのサポート



AIによる画像診断支援

より気軽でより質の高い
診断・治療へのアクセス



量子コンピューティングによる生産性の向上、労働の効率化

カーボンニュートラルへの貢献

ソフトウェア高速化サービス

当社事業の根幹をなすソフトウェア高速化サービスにおいては、ソフトウェアの最適化やアルゴリズム改良等によりコンピュータの性能を最大限に引き出すことで、大量データの高速処理を実現しています。



当社

オリジナルソースコードのご提供

高速化したソースコード



お客様



コンサルティング



高速化



サポート

- 性能評価
- ボトルネックの特定
- アルゴリズムの改良・開発
- ハードウェアへの最適化
- レポート作成
- レポートやコードへのQ&A
- 実製品への組込み支援

